

「三人寄れば文殊もんじゆの智慧」ということわざがあります。

この「文殊」とは「文殊もんじゆ師利菩薩しりぼさつ」のことで、人が三人集まれば文殊菩薩もんじゆぼさつのよ
うなすぐれた智慧ちえが生まれる、という意味です。

道元どうげん禅師 九歳の頃、世界の存在ほんのうや煩悩、悟り、智慧などについて書かれた
『倶舎論くしゃろん』という難解な仏教書を何度も読み通し、その優れた才能を老年の僧侶が
ほめて、「あなたの利発りはつさは文殊さまのようだ。きっと優れた僧侶になるであろう」
と述べたと、後に瑩山けいざん禅師が『伝光録でんこうろく』に記しています。そこから「文殊丸もんじゆまる」と
いう道元禅師の幼名の伝説が生まれました。

多くのお寺では、釈迦しゃかさんぞん三尊さんそんとって、本堂の中央に本尊であるお釈迦さま、向か
って右側に獅子ししの背に乗り、蓮華座れんげざで結跏趺坐けっかふざの坐禅を組み、右手には智慧の象徴
である宝剣ほうけんと左手には経典きょうてんを持った文殊菩薩さま、向かって左側には白い象に乗
った、普賢菩薩さまをお祀りします。

坐禅修行を行う時は、横になった獅子の上に坐禅を組んだ文殊さまをお祀りしま
す。この場合は、菩薩の姿ではなく修行僧のお姿で「文殊大士もんじゆだいし」と
呼ばれ、坐禅修行の中心として大切にされるのです。曹洞宗では、坐禅堂ざぜんどう（僧堂そうどう）
の中央にこの「文殊大士」をお祀りし、坐禅修行を「文殊大士」と共に行うのです。
さとりに至る智慧を常にみんな一緒に大事にしていこうという願いを込め修行をす
るのです。

また、文殊さまは智慧の菩薩ということからでしょうか、菅原すがわらのみちざね道真てんじん公の天神様
と同じ毎月二十五日が御縁日です。そして、守り本尊としては、卯年生まれの本尊
でもあります。

このように、多くの人に智慧の仏さまとして慕われる、身近な菩薩さまです。

お悟りの道を行くのに無くてはならないものが智慧であることを、文殊さまは教
えてくれているのです。

山あり谷ありの私たちの人生、常に知恵を大切に、身をととのえ、息をととのえ
て、心静かに正しい道を文殊さまと共に歩んでいきたいものです。